



むぎの郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

January 2021

ソーシャル ファーム ピネル/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター つれもて/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース/サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/叶夢向/創cafe/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637 〒640-8301 和歌山市岩橋643 http://www.muginosato.jp

年末年始の取り組み



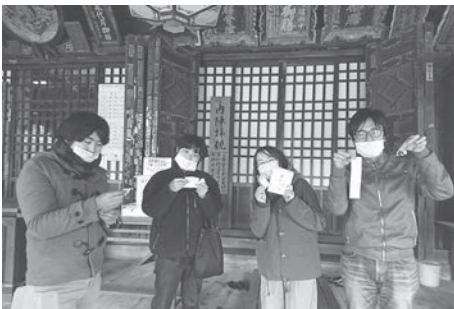
和歌山生活支援センター
初詣 宇治神社 1.5(火)



むぎピース
書初め 1.4(月)



くろしお作業所
書初め 1.4(月)



ハートフルハウス 創
初詣 粉河寺 1.5(火)



紀の川生活支援センター
初詣 甘露寺 1.5(火)



こじか園
芋掘り 11.6(金)

私たちのめざすもの ～麦の郷4つの理念～

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



新年おめでとうございませす



社会福祉法人
一麦会・麦の郷
理事長 山本 耕平

今年は、全世界を襲った新型コロナウイルス禍のなかでの年明けとなりました。みなさま、お元気で過ごしてでしょうか。

さて、昨年の年明けからの新型コロナウイルスは、私たちの生命や生活をことごとく襲ってきました。新型コロナウイルスの蔓延は、生命の危機はもちろんなこと、社会的なさまざまな課題をもたらしました。まず、コロナ倒産はもちろんなこと、たくさん非正規雇用労働者が雇い止めにあつたといった深刻な課題があります。また、昨年度から自分で命を絶つ人が増加していることも深刻な社会的課題でしょう。さらには、新型コロナウイルスに罹患した人やその家族に対する偏見により、当事者の生きづらさが生じているとの報告もあります。今日、私たちの社会は、深刻な危機を迎えていると言えるでしょう。

この新型コロナウイルスパンデミックは、人類を長いトンネルに入れたのではないのでしょうか。ただ、

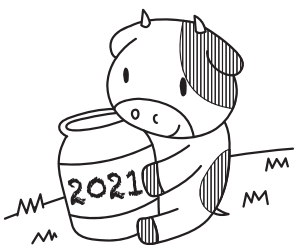
みなさん、抜けないトンネルはありません。トンネルの向こうには、今までにみたことがない風景が広がっています。そのトンネルは掘り進めることにより明かりがみえてきます。私たち人類は、このトンネルを掘り進める英知を持っています。その一つが、ワクチンの開発です。これは、新型コロナウイルスというトンネルを制する為には不可欠な戦いです。しかし、もう一つ忘れてならない、社会の総力を注ぐ必要があるのは、こうした社会の危機が生じた時、より深刻なダメージを受ける人たち、この危機の下で生存や発達の危機を招いた人たちの存在です。

雇い止めになった非正規雇用の労働者や新規採用の内定取り消しにあった学生たちはもちろんのこと、私たちの周囲には、このパンデミックがもたらす漠然とした不安の為に労働の場や居場所に参加できなくなった人、休日に親や同行支援のヘルパーさんと外出することが困難になりパニックを示すことが多くなった子どもたち、取引先との関係で仕事を失った障害者就労継続支援事業所等々、コロナパンデミック故に生じた課題が山積しています。

今、ここで私たちが考えなければならぬのは、こうした社会的危機が生じた時に、その危機を解決する責任をどこに求めるかです。長い安倍政権が終わり菅政権となりましたが、そこには、相も変わらず社会的な課題の解決を個人の努力に求めようとする考えをみます。人々が力強く意欲的に生き抜く為に必要なのは、その生き方を応援する社会の仕組みであり、社会の力です。

2021年、私たち麦の郷は、麦の郷で働くなかま達、職員、なかま達の家族、そして地域の人々が力強く生き抜くことができる社会の仕組みづくりに邁進します。その為に必要となるのは、その仕組みづくりを行う主体の育ちであり、その育ちを保障する実践の創造です。なかま達や職員が、日々の実践に参加することが嫌になつたり疲弊したりするような状況があつては、その社会の仕組みを創り上げることはできません。長い頑固な岩盤で遮られているかのように見えるトンネルを力よく掘り進めるシールドマシンの役割を果たすことができる為には、それぞれの実践現場や暮らしの場がその力を持つことが必要です。

本年も、麦の郷コミュニティがその力を育てることができるようにご支援、ご教示、よろしくお願ひ申し上げます。



麦の郷の年男・年女 今年の抱負



ソーシャルファームムビネル
佐川 伊宏

今年は年男です。私は毎日ソーシャルファームムビネルで働いています。2007年12月に麦の郷でお世話なりは13年になります。(きて1週間でバイク事故にあい2008年9月に復帰なのですが。)諸先輩方の後姿をみてこまで来ることができました。最近洗濯物のようによじれるまで自分を鍛錬しなきゃあと考えて仕事にとりくんでいます。社会の一助となつていれば幸いです。バイク事故は麦の郷に入職して早く仕事を覚えなきゃと焦る気持ちもあいまつて帰宅途中電柱に衝突してしまいました。この時の苦い経験を糧に干支のつしのように一歩一歩着実に歩んでいきたいと考えています。よろしくお願ひします。



むぎピース
前田 佳代子

私はむぎピースに週3日通っています。羊毛フェルトでコースターやポーチなどの雑貨を作つたり、内職作業をしています。お仕事は難しく不安になることもあるけれど、その都度職員さんに聞いて安心して取り組んでいます。また昨年9月から紀の川生活支援センターのクラフト教室にも月1回行って楽しいです。これからも職員さんよろしくお願ひします。今までも健康に過ごして来たので60歳になつてからも、健康で怪我なくむぎピースのお仕事を頑張りたいです。



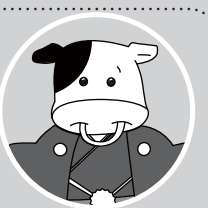
六星舎
鈴木 元基

今年は僕の年なので、健康に注意し今まで以上に、仕事をがんばります。



はぐるま共同作業所ラ・テール
小畑 陽平

ぼくは、また仕事で、みかんジュースとはっさくジュースといちごジャムとみかんジャムとブルーベリージャムとじゃばらジャムと豆富をがんばります。それから、だいたいのパウンドケーキと豆腐のチーズケーキとサブレットこめこの食パンとおかきもがんばります。柿ジャムといちごジャムもがんばります。



六星舎
久貝 和樹

病気を治していくために、通所することを努力しながら、日々の目標も出来る限り一生懸命に取り組んで、日々前進していけたら良いなと考えています。



2020年度 新人職員研修会を終えて

2020年度の新人研修会は、コロナ禍の影響で例年とは時期を遅らせて、11月2日と6日の2日間に分けて各1時間半、麦の郷ホールにて開催されました。昨年の7月1日から今年9月1日までに入職された16名の新人職員のみなさんが受講しました。

11月2日の第一講座では、「イキイキ、わくわく、麦の郷マインドとは」というテーマで、なかまや家族の願いに寄り添って無認可共同作業所から始まった麦の郷のあゆみや、麦の郷のめざす『気づき』から『共感』『し』『行動』と繋げ『連携』を強め拡大していく『ほっとけやん、つれもていこう』の精神、制度改革の経過、背景、問題点、矛盾等について教育研修委員長鈴木が講義しました。

11月6日の第二講座では、「新型コロナウィルスとともに生きる障害者福祉現場」というテーマで、山本理事長から講義がありました。新型コロナウィルスの蔓延との関わりで、不安やイライラ、葛藤が起っている現状から、その不安に向き合うために職員集団で自分の気持ちの伝え方、燃え尽きが生じやすい障害者福祉現場で今こそ追求すべき風通しのよい職場づくりについてお話しいただきました。

新人職員には受講後「麦の郷で働く職員とし



て必要なものとは？」というテーマで、終了レポートを書いていた。『麦の郷の始まりが『ほっとけやん』という気持ちからだと教わり、そのシンプルなお持ち1つがなかまの居場所を作り上げ、守ってきたということに感銘を受けた。」「大切な家族や職場の同僚になぜ辛いのかを共有し、伝えていくことで、いい関係づくりができ、難しい状況をみんなで乗り越えられる力になるのだと、良いヒントを頂いた。」「新型コロナウィルスによる自粛を徹底する中、不安がつきませんが悩みを話し助け合える職場作りを目指して頑張りたい。」「『職員集団は一人ひとりの集合体』を肝に銘じたいと思う。」「誰もが初めて経験するコロナ禍で、その健全さを個人から職場単位で考え解決するためによりよい方向へ導いていただける研修であった。」「麦の郷の一員として、職場や周りの方々に気を配り、自分を含め、全員がいつもイキイキとしている職場

を目指したい。」「職員間のコミュニケーションがいかに大事であり、話し合える職場環境づくりを心がけることが重要であるかということである。」「麦の郷の職員として、『気づき』と『共感』を大切に、仲間・職員・社会の全ての人に寄り添い、支え合うことが求められるのだと感じた。』等のレポートがありました。

新型コロナウィルス感染防止のため、2日に分け、受講者同士の間隔も広くし、常時換気をしながらの新人研修会でした。誰もが経験したことがない状況の中で日々行っている実践や自分自身の感情を振り返り、向き合い考える機会になった講義だったと思います。コロナ禍の先行きが見えない今、障害者福祉現場で様々な矛盾と向き合い実践をしている私たちにとって、学び合える機会がとても大切だと思いました。

(麦の郷教育研修委員会 圓山 歩美)

「コロナに負けず、 楽しむぞ探そう」

くろしお作業所

くろしお作業所では、レクリエーション活動を大切にしています。仲間と職員がやりたいことを行きたい所を話し合い、所内では普段できない体験・経験を重ねていこうと取り組んでいます。しかし、今年は新型コロナウィルスが流行し、祭りや運動会など楽しみにしていた行事が



が食べたいねとなり、何が食べた？肉が食べたい！という仲間の意見で美味しい焼き肉弁当を堪能したり、和歌山城の城内を散策、いつも参加していたナイスハートやわされんの運動会もコロナの影響で中止となったため、プチ運動会を開催するなど、制限の中での活動ではありませんが、楽しむことができました。これからどんな状況になるか予想もつきませんが、状況を判断し、仲間、職員の安全と安心を最優先に、いろんな方法を考え、探し、新たな楽しみ方を見つけていけたらいいなと思っています。

くろしお作業所 川崎 愛香



そして、目的の紀の国わがやま文化祭2021が今年開催されますよ。県民文化会館では今、『みんなの夢・希望つなげよう』をテーマに折り鶴を使った『モニユメント』を作成するというところで折り鶴を募集中とか。そういえば、日頃から趣味で折り鶴をたくさん折っているなかまが居る！というところで声を掛け、支援センターでなかまに折ってもらった分も含め、『ゴミ袋3袋半の折り鶴を一緒に持って行きました。係りの人に直接渡すと、とても喜んでいただけました。折り鶴係の方いわく、まだまだ折り鶴が足りないとのこと。根詰めない範囲でよいので折ってほしいとお願いをされました。なかまも『モニユメント』何ができるんや？と楽しむ様子でした。

そして、目的の紀の国わがやま文化祭2021が今年開催されますよ。県民文化会館では今、『みんなの夢・希望つなげよう』をテーマに折り鶴を使った『モニユメント』を作成するというところで折り鶴を募集中とか。そういえば、日頃から趣味で折り鶴をたくさん折っているなかまが居る！というところで声を掛け、支援センターでなかまに折ってもらった分も含め、『ゴミ袋3袋半の折り鶴を一緒に持って行きました。係りの人に直接渡すと、とても喜んでいただけました。折り鶴係の方いわく、まだまだ折り鶴が足りないとのこと。根詰めない範囲でよいので折ってほしいとお願いをされました。なかまも『モニユメント』何ができるんや？と楽しむ様子でした。

そして、目的の紀の国わがやま文化祭2021が今年開催されますよ。県民文化会館では今、『みんなの夢・希望つなげよう』をテーマに折り鶴を使った『モニユメント』を作成するというところで折り鶴を募集中とか。そういえば、日頃から趣味で折り鶴をたくさん折っているなかまが居る！というところで声を掛け、支援センターでなかまに折ってもらった分も含め、『ゴミ袋3袋半の折り鶴を一緒に持って行きました。係りの人に直接渡すと、とても喜んでいただけました。折り鶴係の方いわく、まだまだ折り鶴が足りないとのこと。根詰めない範囲でよいので折ってほしいとお願いをされました。なかまも『モニユメント』何ができるんや？と楽しむ様子でした。

そして、目的の紀の国わがやま文化祭2021が今年開催されますよ。県民文化会館では今、『みんなの夢・希望つなげよう』をテーマに折り鶴を使った『モニユメント』を作成するというところで折り鶴を募集中とか。そういえば、日頃から趣味で折り鶴をたくさん折っているなかまが居る！というところで声を掛け、支援センターでなかまに折ってもらった分も含め、『ゴミ袋3袋半の折り鶴を一緒に持って行きました。係りの人に直接渡すと、とても喜んでいただけました。折り鶴係の方いわく、まだまだ折り鶴が足りないとのこと。根詰めない範囲でよいので折ってほしいとお願いをされました。なかまも『モニユメント』何ができるんや？と楽しむ様子でした。

そして、目的の紀の国わがやま文化祭2021が今年開催されますよ。県民文化会館では今、『みんなの夢・希望つなげよう』をテーマに折り鶴を使った『モニユメント』を作成するというところで折り鶴を募集中とか。そういえば、日頃から趣味で折り鶴をたくさん折っているなかまが居る！というところで声を掛け、支援センターでなかまに折ってもらった分も含め、『ゴミ袋3袋半の折り鶴を一緒に持って行きました。係りの人に直接渡すと、とても喜んでいただけました。折り鶴係の方いわく、まだまだ折り鶴が足りないとのこと。根詰めない範囲でよいので折ってほしいとお願いをされました。なかまも『モニユメント』何ができるんや？と楽しむ様子でした。

(和歌山生活支援センター 濱田 麻里)

紀の国わがやまアート展

和歌山生活支援センター

11月8日(日)～11月22日(日)に県民文化会館にて紀の国わがやまアート展がありました。11月20日(金)になかまと一緒に見学へ。



相次いで中止となってしまいました。先が見えないこの状況の中、「なんで?」「どうしたらいいの?」そんな仲間の不安が募っている現状でした。そこで、できる範囲の中で仲間の不安を軽減させることはできないのかと職員間で話が出始め、職員会議や班会議で協議を重ねた結果、少人数のグループで活動、人が密集している所は避ける、大型商業施設なども避ける、昼食は外食せずにテイクアウトした物を作業所に持ち帰り食べる、といった感染予防対策を行ったうえでレクリエーションを計画することになりました。今までと同じようなレクリエーションができないということに最初は戸惑いを浮かべていた仲間達でしたが、グループ分けを行った後、各グループで行き先の確認や昼食はどうするか等の話し合いの回数を重ねていくうちに仲間達からも「楽しみやなあ」「お弁当はこれがいいなあ」「久しぶりの外出や嬉しう」といった明るい話題が飛び交うようになりました。何か美味しいもの



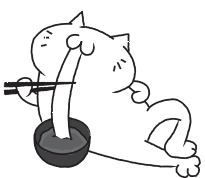
「コロナ支援企画」 「紀の川飯」に参加！

創力カフェ

創力カフェのある紀の川市では、今年5月に「コロナ」の感染拡大により、大きな影響を受けている市内飲食店を応援しようと市役所商工労働課が市商工会や那賀町商工会とともに「紀の川市 TAKEOUT 普及事業」として「紀の川飯」を立ち上げました。「コロナに負けない！ピンチをチャンスに！」とテイクアウト資材費用の補助、特設HPやSNSでお店やメニュー紹介などの情報発信を行い、創力カフェも含め市内の飲食店が約100店舗参加しています。創力カフェでは「コロナ



自粛をきっかけに新たに始めたテイクアウトメニュー「ジビエメンチカツバーガー」と「熊野牛カレー」を掲載していたでています。



そして10月には紀の川飯の企画として、毎週金曜の夕方に市役所ラウンジにて職員の方向けにお惣菜を販売する「晩ごはん一品 TAKEOUT」の取り組みが開催されました。創力カフェも特製ソースのチキンカツや熊野牛コロケポール、オリジナルオムレツや季節のパスタを詰め込んだデリセットなど毎回5品ほどをパック詰めにして期間中4回出店させてもらいました。毎回5、6店舗が出店し、17時30分の終業のチャイムとともに販売をスタートするとラウンジは一気にぎやかに。販売時間になる前からお目当ての品を買い求めて店舗テーブルの前に並ぶ人たちもいました。人気メニューは開始5分足らずで完売するほど大盛況！18時の販売終わりを待たずに15分程度ですべて売切れる日もありました。「コロナ禍での双方のニーズが合致し、「またやってほしい！」と大好評だったようです。売上げが減少していた中での取り組みで創力カフェを初めて知ってくれた方との出会いもあり、大変ありがたい機会となりました！

今後山崎邸を拠点として地域に根ざし、地域の人たちにももちろん、行政の方々とも一緒に紀の川市・粉河を盛り上げていきたいです！

（創力カフェ 石橋 由季子）

障害者週間

広げれネットワークに参加しよう

紀の川生活支援センター

那賀圏域で障害者週間に毎年開催されている「障害者週間 広げれネットワーク」のイベントに初めて参加しました。つながり研修では、約30人の参加者が集まり、障害のあるお子さんと生活されているご家族と、支援者が7つのグループに分かれて、「コロナ禍で家族や事業所の大変だったことや工夫した事、福祉に対する思い」などをそれぞれの立場から本音で語り合いました。ご家族の方や支援者から、日々成長していく本人への支援について、大変熱い思いを聞かせて頂くことができました。

支援をしていると、本人への関わり方や、支援の仕組み、コロナ禍における対応などについて、「これでいいのかわ？」と疑問や悩みをもつことがあります。それは恐らく、ご家族も支援者も同じだと思います。今回の研修を経て、日々の生活や労働の



中で抱えている疑問や悩みについて、ご家族と支援者が本音で語り合える機会は、これまでにあまりなかったことを実感しました。

アート展では、センターの利用者の方と一緒に作品を見て回りました。「これはどうやってつくってるんだろう？」「今度、センターでもやってみよう」と、作品を見ている方から自然とそのような声が聞こえてきました。新型コロナウィルスの影響で、多くのイベントが中止され、何かと制限を受けることが多い社会となり、何に対してもやる気が起こらなくなることがありました。しかし、アート展の作品を見て、何かに取り組む意欲がわくことを自分自身も感じることができました。さまざまな人のアイデアや思いを詰め込んだアート展だからこそ、何かに取り組みたいくなるようなパワーが、展示を見た人に広がっていくのだと思います。

（紀の川生活支援センター 川村 萌華）

「コロナ」地域の方々と一緒に

こじか園

毎年5月にこじか農園に年長の子も達がサツマイモの苗を植え、秋にはお芋掘りをしていましたが、2年前から子どもたちがお芋掘りをする前日や当日に、いのししに先越されてしまい、楽しみにしていたお芋掘りができず、子ども達はがっかりすることが続いていました。そのことを知った山口地区町づくり協議会の方々や自治会の会長さんが、小学校の生徒達と一緒に

にしようとして誘って下さり、5月にこじか園の年長の子もと保護者が町づくり協議会の方々や山口小学校の生徒、愛育会の方々と一緒に植えました。そのサツマイモの収穫時期となり11月6日に子どもたちがお母さんと一緒にお芋掘りを行いました。当日は山口地区町づくり協議会の方々も来て下さり、お芋掘りがやりやすいように先に準備して下さったり、お母さんや子ども達が掘るのを手伝って下さいました。土だらけになってお芋が出てくると大喜びの子ども、土を触るのが苦手な子ども、お母さんが楽しんでる様子など地域の方がこじか子やお母さん達の姿を、暖かく見守って下さっていました。いつもですが、地域の方がこじか子達のことを地域の子もたちと同じように接して下さいることを、職員だけでなくお母さん達も感謝しています。収穫したサツマイモは大量で、お土産にたくさん持って帰りましたが、園でも後日、焼き芋パーティーをしたり、給食やおやつで食べました。このお芋掘りで子ども達は人との関わりやいろいろな経験ができました。これから地域との関係を大切にしていきたいと思っています。

（こじか園 尾崎 由加子）



むぎ・わくわくレポート14

みんなのほっとする居場所に

「仕事の後に立ち寄れるところができてよかったです。」夕刻のたまり場に参加した時の気持ちを教えてくれたのは三津子さんです。連続講座「今日の私はアーティスト」にも参加してくれて、「思い切った作品を作れて、いい気分転換になりました。」とこやかな表情です。夕刻のたまり場、やりたいこと講座、連続講座を開催してきて、一緒に学び合い、少しずつみんなのことを分かり合えたことで「安心できる居場所」へと変化しているようです。



当初は、知らない人のおしゃべりや講座に挑戦することに少々不安があった人もいたかもしれません。でも最近では「こんなことしたい。」と自由に意見が飛び交います。以前は、気持ちがいらいらい時もあったという三津子さん。「いろいろ年代の人が集まり楽しいです。」先日のたまり場では、みんなが懐かしの曲を口ずさんだり、曲について語り合ったりと、三津子さんの周りにはたくさん笑顔があふれていました。

（ゆめ・やりたいこと実現センター

尾方 千春）

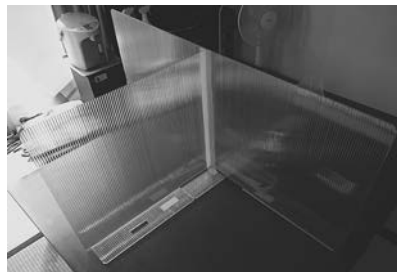




カーサむぎのパーティーション

麦の郷のグループホームでは、新型コロナウイルス感染症対策としてパーティーションを自作して食事の際に利用しています。他にも毎日の検温と帰宅時、食事の前にも手洗いやアルコール消毒などの声掛けや支援をおこなっています。

(麦の郷居住福祉事業所
武田 賢二)



円応教紀の国教会の皆様

円応教の皆様から、61,384円のご寄付を頂きました。コロナ禍の中において、大変な状況にも関わらず、今年もご支援してくださいました。こじか園の遊具の購入等大切にに使わせて頂いています。円応教紀の国教会の皆様、本当にありがとうございました。

(ソーシャルファームピネル
山本 哲士)

アクリル板の仕切り立て整備

この度、新型コロナウイルス感染症対策としてアクリル板で仕切り立てを整備しました。整備にあたり既製品ではなくオンリーワンの仕切り立てを、就労継続支援B型事業所ポズックにオーダーした製品(写真)です。アクリル板を通しての面談は声が聞こえづらく、さらにマスク着用することで顔の表情もわかりづらいですが、色鮮やかな枠組みでなかまの作品がちょこんと乗ったオーダー製品はとても穏やかな気持ちになり、和やかに面談することができます。(障害者就業・生活支援センターつれもて 松岡 裕子)



明るく安心して活動できる職場環境を!

事務管理部は、本部事務所8名と美園1名の9名の職員です。今年度、3名の方が入職し、新しい風が吹いているところです。この9名で各事業所の担当をしています。月1回9名で会議を行い、一か月の予定や業務を共有しています。週のはじめに、本部事務所の8名でミーティングを行い、理事長、副理事長の予定、一週間の業務、各事業所等の情報を共有し、「今日の一言」として、内容にこだわらず、思っていることをミーティングの最後に発表したりしています。業務としては、日々の入金、入金等の会計処理から決算まで全般、国保連の請求業務、福利厚生や労務管理等行っています。ネットワークの整備により事務処理の効率化もはかられました。また、事業所にお手伝いに行ったり、レクや旅行にも参加させて頂くようになり、仲間とも接することができ、ただ事務処理や請求業務をするのではなく、職員さんや仲間が、重なっています。

一年に一度、きょうされん等の会計研修やきょうされん大会等、興味のある研修会・勉強会に積極的に参加し、職場環境の向上と、情報発信の充実に努めています。

今は、コロナ禍で、研修、催しがないので、仲間と接する機会も少なくなっています。

事務管理部は、地域や関係機関との連携ネットワークの中心を目指して、常にアンテナをはり、情報と共に笑顔と元気を発信出来るように取り組んでいきます。

(事務管理部 仁井村 和子)

